

令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

認め合い、高め合い、未来を切り拓く児童の育成 白岡市教育委員会・白岡市立白岡東小学校

「個別最適な学び」を目指した取組事例

事例1

○教科名 算数科

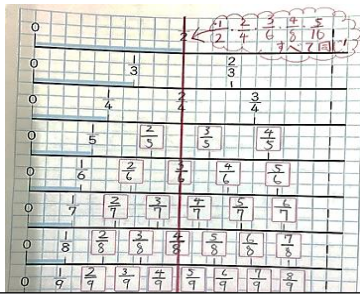
○単元名 「分数をくわしく調べよう」第4学年

○身に付けたい力 異分母の分数の大小関係について理解し、説明することができる力

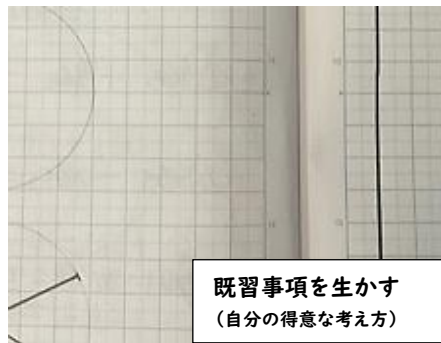
○個別最適な学びに向けた工夫

① 自分に合った方法を選択して、課題解決を目指す

「分母がちがう分数はどうすれば比べることができるのだろうか」という課題に対して、子供たちが自分に合った解決方法を選択して自力解決ができるように取り組んだ。子供たち一人一人に応じた「指導の個別化」を図ることをねらいとしている。



数直線(教科書に載っている方法)



既習事項を生かす
(自分の得意な考え方)



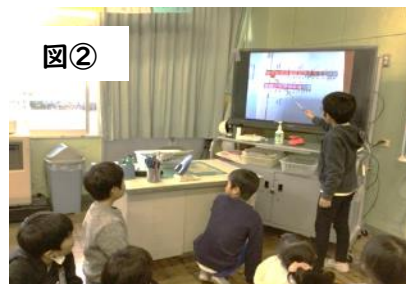
教師によるヒントタイム

② 個別最適な学びと協働的な学びをつなげる「自由交流(みつばちタイム)」の活用

本校では、「認め合い、高め合い、未来を切り拓く児童の育成」を目指し、児童同士の学び合いに力を入れて取り組んでいる。自力解決ができた児童から、離席し自由に友達と交流できる「自由交流」の時間を設定している。図①のように、ペアで交流する児童や図②のようにモニターの前に集まり、自分の考えを発表する児童、図③のように友達の意見を聞いて、自分の考えの修正や付け足しなどをする児童など教室をダイナミックに活用して自分に適した学びができるよう取り組んでいる。また、個別最適な学びが「孤立した学び」にならないように協働的な学びと効果的に連動する機会になることも期待している。



図①



図②



図③

事例2

○教科名 算数科

○単元名 「分数と小数、整数の関係」第5学年

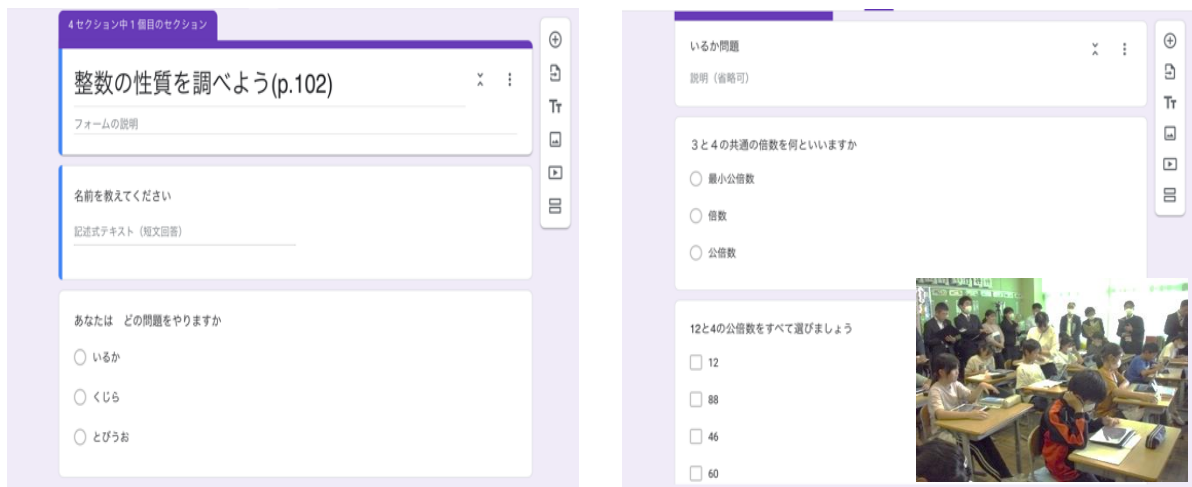
○身に付けたい力 整数の商を分数で表せることを活用し、分数を少数で表す方法を考え、説明する力

○一人一台端末を生かした個別最適な学びへの工夫

「Google フォームを活用して自分で問題を選択する」

学級全員が一律の適用問題を行うのではなく、Google フォームを活用して適用問題を作成し、自分に適した問題や挑戦してみたい問題を選択して取り組めるようにした。答えを選択すると、解答もわかるよ

うに設定した。子供たちが自分の理解度に合った問題を選択できるようになり、「学習の個性化」を図ることをねらいとしている。課題としては、単元ごとに適用問題を作成することが必要であるため、その時間が教師の負担となってしまふことである。一度作成すれば蓄積することができるので、研修の時間を活用して作成したいと考えている。



事例3

○取組場面 学校行事「市内陸上大会・運動会・全校徒歩遠足など」

○対象 全校児童

○取組の工夫

「一人一人の児童が「めあて」を設定し、振り返る活動を通して学校行事の充実を図る」

一人一人の児童が「めあて」を設定して学校行事に取り組めるように学校で共通した振り返りカードを作成した。学校行事を通して、一人一人の児童の成長につながるように、自分に適しためあてを設定して目標をもって学校行事に参加できるように工夫して取り組んでいる。学級活動(3)と関連を図り、より具体的で自分に適しためあてが意思決定できるようにしている。

活動後には、振り返りを行う。絵日記で記述する欄と学校行事のねらいに迫るために教師が設定した自己評価欄の二つで振り返りを行っている。振り返り後には、教師からの励ましの言葉や児童同士の相互評価をする時間を設けている。



学級活動(3)「自分を高める陸上大会」の板書と児童の様子

振り返りシート(高学年用)



昨今では、働き方改革等で、学校行事の見直しや精選が迫られている。一人一人の行事をただこなすのではなく、教師は子供たちにどんな力を身に付けさせたいか考えることが大切である。そして子供自身が自分自身でめあてを決めて、学校行事に取り組む。さらに、活動を振り返り次の活動につなげるといふ一連の活動こそが、未来を切り拓く子供たちを育成することに欠かせないことである。